

☆ 中国

炭素繊維**吉林で炭素繊維プラットフォームを建設**

5月9日、吉林省経済開発区で、吉林炭素繊維プラットフォームの建設が開始された。計画では、同開発区に、炭素繊維の産業チェーンを発展させ、「中国のカーボンバレー」を建設するという。現在、吉林経済開発区には、吉林化繊、中鋼江城炭素繊維、吉研高科などの炭素繊維メーカーが集積しており、同地で、炭素繊維の原糸から炭素繊維、複合材料、炭素繊維製自転車製造までの炭素繊維産業チェーンを形成している。

プラットフォームは、吉林市経済開発科学技術有限公司が1.2億元をかけて建設するもので、敷地面積3.32万㎡、中間試験室、インキュベーション工房、研究開発センター、検査測定センター、総合サービスセンターなどを備える。完成後には、炭素繊維企業に対して、製品情報の提供や融資などの一体化サービスを提供する予定であり、9月末の完成をめざす。

同開発区はこれまで、東華大学や吉林省紡織工業設計研究院などと産学研協力関係を築いてきた。これら機関の研究者は、このプラットフォームで高性能炭素繊維の実験、試験生産を行い、T700やM40レベルのコア技術を掌握することに力を注ぎ、産業化を目指すという。また、プラットフォームでは自動車、風力発電、補強材などの川下の新規用途の開発に力を入れる。炭素繊維の性能に関する検査測定も可能である。

5月10日に吉林経済開発区と吉林省紡織工業設計研究院はT700レベル炭素繊維研究開発計画協力協議に調印した。この計画は既に省科学技術庁の成果鑑定を通過している。これは同プラットフォーム初のプロジェクトとなる。

合 織**INVISTA、エアバッグ用ナイロン工場を拡張**

INVISTAは上海の青浦区でエアバッグ用ナイロン66工場を増設、その生産能力を年産2万トンを超とした。会社によると、アジアにおいて単一工場として年産2万トンを超えたエアバッグ用ナイロン工場は今回が初めてである。

INVISTAは2008年に同工場を立ち上げ、2011年にはアジアで急成長する自動車用エアバッグの需要を受けて工場拡張計画を発表、2013年4月に拡張が完了し、生産が開始されていた。

☆バングラデシュ

繊維政策

政府、衣料輸出支援策を発表

バングラデシュ政府は2013年7月1日から始まる2013年度に、同国の衣料輸出支援策として、輸入織物にかかる相殺関税を現行の45%から20%に削減することを明らかにした。輸入織物には現在45%の相殺関税を含めると131.33%の税負担が課されている。

また、国内外でセーターなどのアクリル系製製品の需要が増大する等を理由として、化合織短繊維に適用されている5%の通常関税(CD)を免除する。

さらに2013年6月から2015年6月まで、ジュート製品等の優遇措置(15%の低率関税適用)がとられているが、その期間延長を提案している。HSコード3403.91.00のテキスタイル製品に課される関税についても12%から5%に緩和された。

同国政府は、昨年度6.1%と2009年度以来の低成長となったGDPを受け、積極的政府支出により、GDP成長率を7.2%に回復させる計画である。その一環として、公共投資を16%増の2兆2,200万タカ(280億ドル)まで引き上げるといふ。死者を出した衣料品工場火災事故の後、労働条件の改善を約束したが、安全な建屋建設のための新たな財政出動については否定している。だが、建築物検査官の深刻な人員不足への対応や、危険な工場を工業パーク予定地に移転させるための土地購入に予算の一部が当てられる模様。

なお、2012年度のバングラデシュの衣類輸出は、布帛衣類が前年比9.6%増の93.9億ドル、ニット衣類が前年比14.1%増の99.2億ドルとなり、同国の輸出全体に占める衣類シェアは79.4%となった。

2012年度のバングラデシュの衣類輸出(100万ドル)

(2012年7月～2013年5月)

	布帛衣類	ニット衣類	合計
輸出額	9,390.3	9,923.1	19,313.3
前年比(%)	9.6	14.1	11.9
輸出全体に占めるシェア(%)	38.6%	40.8%	79.4%

以上